

作業所学会 就労支援分科会 事例・活動報告書

記録者名： 寺田志のぶ

発表者名： ①堀米美紀

②齋藤美穂子

(事業所) 社会福祉法人みどりの樹
ループ奏

(事業所) ①特定非営利活動法人あくしす お好み焼き
こなこな

②社会福祉法人復泉会 KuRuMiX

役 職： 管理者

役 職： ①管理者

②生活支援員

【支援・活動事例の概要】

目標・目的	意見交換も踏まえ“私がこの仕事を続ける理由”を参加者それぞれが振り返り、まだ感じたことのない楽しさや自分とは違う楽しさの捉え方に触れることで、改めて明日からの「支援者としての楽しみ」につなげる。このモチベーションこそが支援の質の向上には欠かせない要素であるとする。
計画・手段	2名の発表者から、支援を通じた楽しさ・やりがい・人と人が関わり合うという事など、個々が感じているこの仕事における醍醐味に着目し、発表してもらう。その後の全体討議で掘り下げていく。
内容・経過	発表① 堀米美紀「“こなこな勤続10年“その成果と気づき” 入職してから管理者になるまでの10年を、ある利用者の支援を通して振り返ると、それは利用者と共に自分自身も成長した10年であり、辛いこともあったがこの仕事でなければ感じられなかったであろう喜びや楽しかったことの記憶が強い。これこそがこの仕事を続ける理由だと気づく。 発表② 齋藤美穂子「ともに成長できる喜び」 未経験から飛び込んだ福祉の世界で、自分はどのくらい貢献できるのかと悩みが多かった。10年の間に、ともに感動し、学び、成長できる仲間（利用者・職員）がいて、自分自身も成長し無価値な人間ではないと感じられたことが、この仕事を続ける理由になっている。
結果・課題	発表者2名とも10年を振り返る内容となった。それぞれに利用者や職員とのわずかなよい出会いがあり、その出会いが本人を変えていた。出会いを成長の糧として捉えられていた。対照的な発表内容だったが、2名とも自分を成長させてもらっているという実感が福祉職に携わる者としての醍醐味に繋がっていると考えられる実践報告だった。

【意見交換】

2名の発表の後、参加者から意見を伺った。参加者それぞれが発表者の発表内容を自分に置き換えて聴いていた。意見交換では、発表者に共感する部分について話す方もいれば、そこから派生して自身の葛藤している部分について話す方もいた。支援についての課題と同じくらい、チームマネジメントについて課題を感じている方がいることがわかる意見交換だった。

【まとめ】

昨年度に引き続き、実践報告の発表を聴くことを通して参加者も自分自身を振り返り、それを共有するという方法を用いた。学会の場が実践報告の場となり、そしてそこから自身を振り返る場とすることが、部会としては大事なことであると考えている。発表者2名の10年の歩みにはどちらも利用者の存在があった。仲間たちから自分自身を成長させてもらっていると感じさせてもらった時、相手から自分の成長としてフィードバックしてもらえるということに、この仕事の大きなやりがいを感じているのではないか。また、チームマネジメントについて課題を感じている方が多くいることが意見交換からわかった。次年度以降、これについて研修のテーマとすることを検討してもよいのではないか。